

「先生としての力量」「先生としての質」の向上のために

－第2回全国模擬授業大会開催される－

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに－第2回全国模擬授業大会開催の概要－

2007年6月12日(火)午前11時から午後2時までの3時間、足利市生涯学習センター(栃木県足利市相生町、旧足利市立相生小学校跡)で、開倫塾の附属機関である開倫研究所主催の「第2回全国模擬授業大会」が開催され、全国各地の学習塾や予備校、公立・私立学校、教育委員会などから170名が参加し、授業の導入部分の教授法の腕を競い合い、また参加者同志の交流を図った。

尚、この大会は、6月10日の栃木県民の日の企業としての協賛事業としても行われ、栃木県教育力向上も目指した。

2. 全国模擬授業大会開催の理由。

- (1)「教育の成果を決定する要因」は、「本人の自覚」と「先生の力量」である。
- (2)「教育の品質」は、①「カリキュラムの質」 ②「先生の質」 ③「マネジメントの質」で決まる。
- (3)このように「教育の成果」や「教育の質」を考えると、「先生の力量」、「先生の質」の向上は必要不可欠である。
- (4)「先生の力量」が最も発揮され、「先生の質」が問われるのは、日々の「授業」である。「授業」をどう行うか、つまり「教授法」が「先生の力量」「先生の質」を考える場合最も重要で、「模擬授業」によって「教え方」が磨かれると考え、多くの教育機関においても授業を行う上で最も難しいとされる新しい学習事項の「導入部分」についての模擬授業が行われていると推測される。
- (5)そこで、「先生の力量」、「先生の質」の向上を目指して、新しい学習項目の「導入部分」についての模擬授業を「志」ある先生方が見せ合い、相互に研究を重ねようと全国規模で企画されたのが本大会である。

3. なぜ栃木県足利市で開催したのか。

- (1)足利市には、中世の儒学と陽明学の学問的中心であったといわれる日本最古の学校「足利学校」があり、「先生の力量」「先生の質」の向上のための行事を行うことに最適と考えたためである。
- (2)主催者である開倫塾の本部も所在し、吉谷宗夫足利市長からも全国の先生方の力量向上と質向上のための研修会を開催するのであれば、是非足利学校のある足利市で行ってほしいとの要請を受けたためでもある。
- (3)「足利市生涯学習センター」を会場として使用できるよう、足利市長自ら御尽力頂いた。
- (4)栃木県教育レベルの向上には、「先生の力量」「先生の質」の向上が不可欠との理由で、栃木県民の日の協賛事業として開催させて頂いた。

4. どのような方法で、大会を開催したのか。

- (1) 1人の先生が15分の持ち時間で、チョークと補助教材1枚のみを使用して、マイクを使わずに授業を行い、新しい学習内容の導入部分を「理解」させる、つまり「わかりやすく」「うんなるほど」と「腑(ふ)に落ちる」ように指導することを競って頂いた。
- ① 出入りの時間が必要なので、1人の先生に大体20分位要したようです。
- ② 英語のみで児童英語を指導するクラス(ベネッセ英語)の模擬授業では、ふだんの授業を再現し、それを見て頂くために、テープレコーダーやフラッシュカードなどを使用して頂いた。
- (2) 科目等を考慮し、4グループに分けて大会を実施。審査員は各グループ5名で、予め示された採点項目で採点し、各グループごとに最優秀賞、優秀賞、奨励賞を決定。表彰式で優秀者を表彰(表彰状と記念品)。最後に、審査委員長をお願いした渡辺剛東日本学院学院長より、非常に高い評価を頂いた。
- (3) 大会終了後、障害者の授産施設として有名な「ココファーム・ワイナリー」(足利市田島町)で懇親研究会を、渡辺崋山や壇一雄が執筆活動をした「厳華園」で宿泊研修会を、参加者の有志で開催し親交を深めた。

5. おわりにー「先生としての力量」「先生の質」のさらなる向上を目指してー

- (1) 「シラバス」「メイン教材」「サブ教材」「テスト(毎回の確認テスト、単元テスト、定期テスト、実力テスト、入学テストなど)」「生徒のアンケート表」「カウンセリングフォーム」などの執筆が先生自らの手でできた上で、「LESSンプラン(所謂「教案」)」を毎時間ごとに書き上げ、「授業の設計」をした上で授業に臨み、授業中は生徒の動きを「LESSンプラン」の中にメモし、授業終了後は先生としての「リフレクション(自省、省察)」を毎日し続けてはじめて、「先生としての力量」「先生の質」の向上につながるものと考えて。(その意味で、毎日の授業ごとに書き続けた「(リフレクションを含む)LESSンプラン」は、「先生としての成長の記録」となる。)
- (2) このような日々の活動の中に、一人ひとりの先生が「模擬授業」を位置づけ、積極的に活用し、時には、自ら所属する教育機関だけではなく、他流試合をする武者修行者のように全国模擬の大会に参加して、先生としての腕を磨くことは意義深いと考える。
- (3) このような模擬授業大会が、全国のありとあらゆる教育機関で独自の考え方や方法で行われ、「志」を同じくする先生方が全国規模でどんどん大会を開催するようになれば、日本の教育改革は一気に進み、税金を全く使わないで教育を大切にする日本ができると確信する。(全世界に、この「模擬授業」が広がれば、日本発の「ソフトパワー」として高く評価されると考える。)
- * 本年の反省を踏まえ、来年度も第3回を実施したいと考えております。第2回の資料もあります。御関心がおありの方は、開倫塾塾長室(高尾 0284-73-7812)まで御遠慮なく御連絡ください。

ー 2007年7月1日記ー